

絵馬研究会

——絵馬にみる庶民信仰——

佐野 賢治

1921年、渋沢敬三によって設立されたアチック・ミュージアムを母体とする日本常民文化研究所は『民具マンスリー』購読会員を中心に全国で活躍する同人諸氏によって支えられてきた。その中には民具の調査研究に当たるだけでなく、自ら省みられぬ民具の可能な限りの収集保存に努めてきた会員も多い。しかし、高齢化や公的な助成も期待できない中でこれらの貴重な民具、民俗資料の保存、研究・展示をはじめとする利活用の喫緊の対応が求められている。愛知の同人、米津為市郎氏の小裂細工物コレクションが寄贈されるなど当研究所にも各方面からの申し出があるが、悲しいかな私立大学の付属研究所ではその対応には限度がある。

こうした中、本研究会は2014年、当研究所に寄贈された羽田勇人氏の小絵馬コレクション約3,000点の整理、資料化に当たって発足した。小絵馬は、庶民信仰を如実に示すだけに各地の博物館・資料館では特別展などが数多く催され、収蔵点数も多い。伊場遺跡の献馬体はじめ、神と人の間を繋ぐ馬の持つ象徴性がさまざま顕れる中、小絵馬はそれぞれの時代や地域の人の具体的願いを示してくれる。



写真1 寄贈された小絵馬の一部



写真2 鎮座1200年祭記念神事新能 安宅ノ関/安宅住吉神社 石川県小松市安宅町



写真3 開運 達磨(七転八起)/坂東十六番水沢寺 群馬県渋川市



写真4 名古屋神社祭礼の図/名古屋神社 愛知県名古屋市



写真5 からくり人形シリーズ(三) 浦島太郎 力神車中切組/神前神社 愛媛県半田市亀崎町

羽田コレクションは小絵馬の学術的な重要性を『絵馬』(法政大学出版局 1974)で体系的に示した岩井宏實氏の指導を受けつつ、自ら現地に出向いて収集されたものが多いだけにその資料性は高い。この小絵馬を研究素材にして新たな視角から捉えようと研究会が企画されその準備会が、鈴木通大氏「絵馬について—小絵馬を中心に—」2015年7月6日(月)14:00~16:00に開催された。羽田仲子氏の参加、説明のもとにコレクションを一同が実際に手に取り、保存状態の良いこと、描かれた願いの種類の多いことを確認し、整理・保存の実務の方策を進めるとともに、分類案はじめ研究面も並行して取り組むことにした。そこで、第1回研究会に岩井宏實氏にお越しいただき、お話を聞くことにした。氏も喜んで承諾、秋に開催予定を立てた。ところがその後、体調を崩され癒えることなく2016年2月に鬼籍に入られてしまった。享年85歳。絵馬はもとより、民具研究全般にわたって大きな指導力を発揮された先生であった。本研究会も含め、『民具マンスリー』誌上で民具研究の先人の話を聞く企画もあり、その矢先でもあった(『愛知県史研究』2016.3では特別インタビュー「青春期の日本民俗学と私」を掲載)。

岩井氏の逝去は残念なことであったが、第1回の研究会は整理実務方面から、三浦麻緒氏「小絵馬コレクションの整理について—中野区立歴史民俗資料館の小絵馬整理を事例に—」2015年12月14日(月)13:00~16:00と題して開かれた。今後、実際の整理・資料化を進め、保存対策とともに展示資料としての公開も図っていきたい。コンパクトではあるが小絵馬の世界は深くて広い。研究会開催はその都度Webサイトで公開するので、関心のある方はどなたでも遠慮なく参加され、発表報告や関連する知恵を提供してほしい。できればこの願いを絵馬型のメールにして送りたいところである。